CRAG

ビードリングとダブルギアスポークで魅せる本格オフローダー垂涎のレース直系モデル

車両で、当時のCRAGはそれらをターゲットに据えた3ピース・オフロードホイールとして、市場を席巻していたのだ。

話を戻そう。そもそもサーキットやラリーなどのモータースポーツシーンで実績を積み重ね、そのノウハウを市販品に惜しみなく注ぐホイール創りをしてきたWORKにおいても、T・GRABICは相当な逸品。ラリーやオフロードレース競技で蓄積されたデータをストリートホイールにフィードバックした、レース参戦マシンのシグネチャーモデルなのである。

そのデザイン上の特徴は、イン側とアウト側で開口部の数を変化させたディスク面によるダブルギアスポークデザインを採用していること。さらにリムデザインには立体的で力強いビードロックホイールを彷彿とさせる造形を与えている。このビードリング形態のリムフランジにはピアスボルトをあしらい、よりリアルな雰囲気を漂わせる。このオフロードテイストに溢れたボトムスのインパクトは、トライトンをより一層タフ&ワイルドな印象へと誘ってくれる。

なおトライトンやハイラックスに対応するのは17インチワンサイズだが、カラーラインナップはマットカーボンカットリムと、アッシュドチタンカットリムの2色で展開。どんなボディカラーにもマッチしつつ、しっかりと足元を主張してくれるから、力強くて逞しいトライトンをさらに格上げできる。



アメリカンピックアップトラックにも引けを取らない押し出しの強さと風格を誇るトライトンにも、オフロードスタイルのティーグラビックはよく似合う。もちろんアグレッシブなトレッドパターンを持つオフロードタイヤとのマッチングも最高だ。今回装着したオープンカントリーR/Tはさらにホワイトレタータイヤで、見た目の派手さはもちろん、オールラウンダーな性能もトライトンとの相性は抜群だ！

WORK ワーク
☎06-6746-2859（西日本コールセンター）
☎048-688-7555（東日本コールセンター）
☎052-777-4512（中日本コールセンター）
●https://www.work-wheels.co.jp/

CRAG® T-GRABIC

15インチ
16インチ
17インチ

クラッグ・ティーグラビック

質実剛健な車輪性能で四駆の足もとを支える

1977年の創業以来、ドレスアップ&カスタムカルチャーにおいて数々のトレンドを生み出してきた日本の老舗ホイールメーカー『WORK（ワーク）』。レースシーンで採用されるリアルなコンペティションホイールでも高く支持されているが、ここで紹介する『CRAG T・GRABIC（クラッグ・ティーグラビック）』は、まさにその極みともいえる存在だ。

まずこのブランド名が、Crosocer Racing Gear（＝CRAG）を意味していることをご存知だっただろうか？ これは文字通り、オフローダーの足もとを支えることを宣言している。またCRAGシリーズの歴史を辿ると、かつてSUVがRVと呼ばれていた（いわゆる四駆ブームの）頃にまで遡る。その時代で人気を集めた車種はパジェロやサーフ、テラノといった6H



●マットカーボンカットリム　●アッシュドチタンカットリム

SPECIFICATIONS ★＝トライトンやラングル対応サイズ

CRAG T-GRABIC

SIZE	INSET	HOLE-P.C.D.	PRICE
15×5.0J	45	4H-100	¥39,600/本
16×5.5J	20	5H-139.7	¥42,900/本
16×7.0J	38	5H-114.3	¥46,200/本
17×8.0J★	20	6H-139.7	¥53,900/本

●カラー：マットカーボンカットリム（MGMRC）、アッシュドチタンカットリム（AHGRC）
●構造：鋳造1ピース（JWL/JWL-T規格適合） ※一部サイズを除く
●付属品：エアバルブ、センターキャップ（16×5.5Jはセンターキャップ未付属）
●その他：15×5.0Jはリムフランジより、ディスクが2㎜突出します。

4WD 6H-139.7 Wheels

お洒落も性能も 車輪（アシモト）から

PHOTO●編集部　TEXT●編集部

THE Bottoms!

●装着ホイール：●装着ホイール：CRAG T-GRABIC（マットカーボンカットリム）／17×8.0Jインセット20/6H-139.7
●装着タイヤ：TOYO TIRES OPEN COUNTRY R/T（265/65R17）
●MODEL CAR：トライトンGSR　●Special Thanks（撮影車両）：東日本三菱自動車販売（https://www.east-mitsubishi-motor-sales.com）

CRAG

●グリミットブラックカットリム

●アッシュドチタンカットリム

クラッグ・ティーグラビックツー

CRAG T-GRABIC Ⅱ

15インチ 16インチ 17インチ



サイズやカラーこそラリーマシン専用の別注仕様だが、高い耐久性と高剛性を実現するそのフォルムは市販品そのまま。ティーグラビックシリーズのホイールは、その根底にレース直系のDNAを持つことを証明した。

チーム三菱ラリーアートが参戦したAXCRのラリートライトンの足もとに2年連続で採用

より強靭な性能を持つ進化したレース直系モデル

WORK製のホイール、CRAGシリーズは、レース直系最新のトピックが、8月にタイで開催されたアジアクロスカントリーラリー2024に参戦したチーム三菱ラリーアートの4台のラリースペック・トライトン（T1仕様Ⅱ改造クロスカントリー車両）の足もとに『CRAG T-GRABIC Ⅱ（クラッグ・ティーグラビックツー）』が採用されていたことだ。

ちなみに同チームのチャヤポン・ヨーター選手はレグ5まで総合1位だったが、マシントラブルによって無念のリタイヤ……。しかし日本人ドライバー・田口勝彦選手が総合5位に入賞するなど、総走行距離2075・54㎞、うち競技区間939・58㎞を走破したラリースペック・トライトンを大きくサポートした。

ちなみに今回装着されていたT-GRABIC Ⅱは基本的には市販品スペックと同等だが、LT235／80R17サイズのタイヤに合わせて、別注サイズとなる17×7・0Jをセット。またカラーリングもブラックのスペシャルカラーとしていた。





写真左の製品版は、光沢を持たせてラウンドする曲線を描くビードロックホイールのような形態を造り込んだリムフランジがアイデンティティとなる。特にこのティーグラビックⅡのビードリング形態は、別体式にしか見えないほどの立体感を誇る。もちろん単なる見映えだけでなく、ラウンドアウターフランジ形状とすることでフランジの強度や剛性アップも図り、走行中の飛び石の直撃を避けやすくする効果も獲得。アウトサイドスポーク付け根のリングから座面までの高低差も強く、一層コンケイブ感が際立ち、また外輪の開口部の広さは、細かな石などを詰まりにくくするためと軽量化に配慮したゆえ。さらに特徴的なインサイドスポーク形状の開口部も広くしてディンプルを設定し、高い耐久性と高剛性を実現している。

SPECIFICATIONS ★＝トライトンやハイラックス対応サイズ

CRAG T-GRABIC Ⅱ

SIZE	INSET	HOLE-P.C.D.	PRICE AHGRCカラー	PRICE GTKRCカラー
15×5.0J	45	4H-100	¥39,600/本	¥44,000/本
16×5.5J	20/±0	5H-139.7	¥42,900/本	¥47,300/本
16×6.5J	38	6H-139.7	¥45,100/本	¥49,500/本
16×7.0J	38	5H-114.3	¥46,200/本	¥50,600/本
17×8.0J★	20	6H-139.7	¥53,900/本	¥58,300/本

●カラー：アッシュドチタンカットリム（AHGRC）、グリミットブラックカットリム（GTKRC） ※装着写真はスペシャルカラー
●構造：鋳造1ピース（JWL/JWL-T規格適合） ※一部サイズを除く
●付属品：エアバルブ、センターキャップ（16×5.5Jはセンターキャップ未付属）
●その他：15×5.0Jはリムフランジより、ディスクが2㎜突出します。

☎06-6746-2859（西日本コールセンター）
☎048-688-7555（東日本コールセンター）
☎052-777-4512（中日本コールセンター）
●https://www.work-wheels.co.jp/









タフ&ワイルドさを高める立体的で独創的な造形美

ビードロック風のデザインをリムエンド部分に施し、さらにリム周辺部とディスク中央部で2つの歯車が組み合わさった独特なディスクデザインを持つティーグラビック。このディスク面はイン側とアウト側開口部数を変え、二重に重なる歯車のような独創的なデザインとなる「ダブルギアスポークデザイン」を採用。これらは単なる装飾ではなく、海外レースで培ったノウハウから生み出された形で、高い剛性と軽さを両立している。ちなみに、センター部はディープコーン化して軽量化。こうして可能な限り贅肉を削ぎ落とすことでアスリートの引き締まった肉体美に通じる立体的な機能美をも感じさせてくれる。逞しい姿にカスタムしたいなら、ティーグラビックを選ばない理由はない。

ティーグラビックおよびティーグラビックⅡの最大の特徴といえる部分が、1ピース構造を採用しつつも、本格的オフロード用ボトムスであるビードロックホイールを想起させるリムデザインにある。フランジのビアスボルトとビードロックリング風のリムエンドは、アップで見てもあたかも別体パーツのように感じられるように立体感を追求し、ティーグラビックのスタイルを印象づける。

